

岡山県における リハビリテーション専門職による 市町村支援報告書

(2015年～2017年)

いつまでも
私らしく生きる

いくつになっても、どんな状況や状態になっても
最後まで自分の人生を自分らしく生きる。

リハビリテーション専門職である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士は、
身体機能・言語機能、生活動作、そして生活環境から
暮らしを支える自立支援のパートナーです。



岡山県

目 次

■本編

はじめに	1
会長あいさつ	2
第1章 リハビリテーション専門職による市町村支援のしくみ	4
1)会の発足に至る経緯	5
2)市町村支援のしくみ	10
第2章 地域包括ケアの推進と地域リハビリテーション	12
1)リハビリテーション専門職と市町村が連携して進める地域包括ケアシステム	13
2)地域包括ケア推進には地域リハビリテーションが欠かせない	15
第3章 活動の概要	18
1)これまでの活動実績	19
2)アンケート結果	24
第4章 市町村支援の実際	28
1)吉備中央町	29
2)真庭市	34
3)西粟倉村	38
4)津山市	45
5)総社市	52

■資料編

資料Ⅰ 事業実施要綱等	56
1)実施要綱	57
2)実施要領	58
資料Ⅱ 住民で取り組む体操の紹介	66
1)総社市『いきいき百歳体操』	67
2)備前市『生き粋びぜん体操』	75
資料Ⅲ リハビリテーション専門職の紹介	80
1)理学療法士(PT)	81
2)作業療法士(OT)	91
3)言語聴覚士(ST)	101
資料Ⅳ 視察報告	110
1)奈良県生駒市地域ケア個別会議	111
2)茨城県シルバーリハビリ体操指導士	116
執筆者一覧	127

1 はじめに

介護保険制度改正により、従来の介護予防訪問介護と介護予防通所介護は、市町村が実施する介護予防・日常生活支援総合事業に移行され、市町村が主体となって、要支援者等軽度者の自立を支援するとともに、高齢者が担い手として活躍できる地域づくりを進めることになりました。

岡山県では、制度改正の趣旨を踏まえて、市町村の取組を支援するために、高齢者が人との交わりや役割を通じて、できるだけ長く活動的な状態を維持できるように、高齢者の地域活動への参加を促進し、地域ぐるみで取り組む介護予防を推進しています。この介護予防の取組には、高齢者の有する力の見極めや、力を発揮できるようにするための環境調整など、リハビリテーションの視点が必要となります。

このため、県において、市町村単独では確保が困難なリハビリテーション専門職を広域的に調整し、岡山県理学療法士会、岡山県作業療法士会、岡山県言語聴覚士会の職能団体の協力のもとに、市町村の求めに応じて支援するしくみを構築しました。

この報告書は、しくみを構築するプロセスと約3年間の支援実績、そして市町村支援の実際をまとめたものです。資料編には、“リハ職”である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のそれぞれの専門性についても紹介しています。

高齢者が地域の中で、生きがいや役割をもって健康長寿を全うできる地域づくりに、この報告書を役立てていただくとともに、これから市町村支援に関わろうとするリハビリテーション専門職の参考書として活用されることを願っています。

平成30年3月

岡山県保健福祉部長寿社会課

2 会長あいさつ

岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会会長 國安勝司

約 800 万人とされる団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向け、医療・介護・福祉サービスの整備が急務であります。その対応のための地域包括ケアシステムの構築が各地域で推進され、様々な取り組みがなされています。

このような状況の中、高齢者が要支援・要介護となることの予防や、要支援・要介護状態の軽減、若しくは悪化の防止がますます重要となることから、リハビリテーション専門職の関わりが求められるようになりました。そのためには、リハビリテーション専門職である理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)が、それぞれの専門性を活かし、リハビリテーションの理念を踏まえて、「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけることが重要となります。

本連絡会は、平成 27 年 8 月に、岡山県からのご支援のもと、岡山県理学療法士会、岡山県作業療法士会、岡山県言語聴覚士会が合同で設立し、各市町村における介護予防・日常生活支援総合事業等の活動におけるリハビリテーション専門職の参加・活用を促進するための活動を行ってまいりました。

設立時より、岡山県から「岡山県地域リハビリテーションリーダー育成・広域派遣事業」を委託され、人材育成のための研修会開催、市町村へのリハ専門職の派遣調整を行っております。このたび、本連絡会のこれまでの 3 年間の活動実績をまとめることができました。

市町村からの派遣依頼は徐々に増え、平成 29 年度は 13 市町村から 300 件に近い依頼がありました。また、地域リハビリテーションのリーダーとして活躍していただく方を養成する「リーダー研修会」、市町村事業に参加するために必要な基本的知識を得る「スタートアップ研修」を実施し、市町村支援を担う人材を育成しています。

平成29年度からは、県内を3つのブロックに分けて、ブロックごとにPT・OT・ST3職種から、それぞれリーダー、サブリーダーを選出し、地域でのフォローアップ体制の基礎づくりをはじめました。このように、少しずつではありますが、設立の目的を果たすための体制は整ってまいりました。

今後、さらにより良い支援体制とするために、これまでの活動の振り返りを行い、抱える課題を整理していくことが重要であり、その上でもこの報告書が役に立つものと考えています。

本連絡会は、これからも、介護予防事業、地域ケア会議への参加をはじめとして理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の専門性を活かし、他職種との連携をもって社会に貢献していきたいと考えております。

執筆者一覧

編集委員長

川崎医療福祉大学 副学長 種村 純

■ 本編

- 第1章 1) 2) 岡山県保健福祉部長寿社会課 坂井容子
- 第2章 1) 倉敷市保健福祉局参与(前 厚生労働省老健局振興課 課長補佐)吉田昌司
2) 医療法人共和会小倉リハビリテーション病院 名誉院長 浜村明德
- 第3章 1) 2) 岡山県保健福祉部長寿社会課 坂井容子
- 第4章 1) 吉備国際大学 狩長弘親
2) 金田病院 丸山謙二、森元隆行
3) 田尻病院 春名誠
さとう記念病院 牧卓史
4) 津山市地域包括支援センター 高見京子
社会福祉法人日本原荘 内田智之
5) 訪問看護ステーションママック総社 大塚啓介

■ 資料編

- 資料Ⅱ 1) 総社市長寿介護課 野瀬明子
2) 備前市介護福祉課備前市地域包括支援センター 岸本直子
- 資料Ⅲ 1) 済生会吉備病院 山下智徳
川崎医療福祉大学 大坂裕
2) 川崎医療福祉大学 妹尾勝利
老人保健施設ルミエール 渡辺展江
3) 岡山市立金川病院 下山憲治
- 資料Ⅳ 1) 倉敷平成病院 寺中雅智
2) 岡山リハビリテーション病院 荒尾賢
岡山市立金川病院 下山憲治
備前市介護福祉課備前市地域包括支援センター 岸本直子
玉野総合医療専門学校 竹村篤
岡山県保健福祉部長寿社会課 倉本千春



作成委託



岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会

community based rehabilitation

<http://rihadantai-okayama.com/>